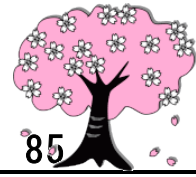


京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

N0. 85



2011 年 4 月発行

事務局：医療法人栄仁会 宇治おうばく病院内

〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割 32-1

TEL 0774-32-8399 (直)

FAX 0774-32-8399 (直)

e-mail office@kyo-psw.org

【2011 年度総会および記念講演案内】

日 時： 2011年5月22日 (日)

10:30～12:30 総会

14:00～16:30 記念講演

会 場： 京都アスニー（京都市生涯学習総合センター）第8研修室
記念講演

テーマ： 生きづらさを生きる～回復者からのメッセージ～

講 師： 月乃 光司氏

（作家、心身障害者のパフォーマンス集団「こわれ者の祭典」代表）

記念講演は日本精神保健福祉士協会京都府支部との共催です。詳細は改めてお届けします。

【速報！6月例会のお知らせ】

今年度の例会は総会終了後の翌月6月よりスタートします。

詳細は改めてメール配信やホームページでご案内します。

日 時： 2011 年 6 月 18 日 (土) 14:00～17:00

会 場： 京都市職員厚生会職員会館「かもがわ」

テーマ： 先輩の実践から学ぶ

講 師： 平野 千尋（独立行政法人国立病院機構 舞鶴医療センター）

熊取谷 晶（京都府立精神保健福祉総合センター）

【2月例会報告】

日 時：2011 年 2 月 3 日 (木) 18:30～21:00

会 場：ハートピア京都4階 第5会議室

テーマ：現場で役立つ家族療法的視点

講 師：山本 陽子氏（社団法人葵橋ファミリークリニック カウンセラー・臨床心理士）

参加者：30名（会員23名、非会員7名）

2月例会は、「現場で役に立つ家族療法的視点」をテーマに、葵橋ファミリー・クリニックにてカウンセラーをされている臨床心理士の山本陽子さんを講師としてお迎えしました。講義は、グループワークではなく、個人ワークを取り入れる形で進められました。最初に印象に残ったこととしては、家族の構成に関わる内容のところ、性について、とてもオープンに、重要視して取り上げられていたことです。どちらかといえば、一般に（幾つになっても）気恥ずかしさを伴い、デリケートなテーマであると思われるのですが、家族関係、夫婦関係をとらえる上で、臨床の場面でも、性的機能が充足されているかどうかの視点が重要であると、はっきりと述べられていました。その上で、レジュメに沿って、家族療法を構成する基本的な考え方、視点（IP という考え方、家族システム論、円環的因果律、ダブルバインド説等）について、わかりやすく事例をまじえて説明して頂き、内容の理解へとつながりました。

ご紹介のあった資料中の、「家族構造の違い」の図は、今日の視点から見れば、そのままの言葉として受け止めるにはやや抵抗感が生じるところもありましたが、そのことは、先生の説明の内容そのものについてということではなく、家族というあり方に向き合うことのきびしさのようなものが感じられたということがあります。幾分か、（家族への）つきつけ感が生じてしまうようにも感じられ、あえて言い換えれば、もう少し「明るい」家族療法というものはないのだろうかとの思いが、お話の途中でよぎりました。

後半に示された、デフォルメされた事例に即しての説明は大変象徴的で、先生が伝えようとしたことがとてもよくわかる内容でした。お伝えすることはとても難しいのですが、面接の過程で、IP の行動に影響を及ぼしている家族の抱える課題が次第に明らかとなり、その視点からのアプローチが必要となることを、世代を超えて非常にダイナミックにとらえられる内容であったと思います。

例会終了後に、参加者の方何名かにお聞きしたところ、最後まで話を聞いて、家族療法の視点、とらえ方について、先生が伝えたかったのはそういうことだったのかということがとてもよくわかったという感想を、皆さん一様に述べられていました。心理臨床に携わる立場からの断固とした視点の提供であったと思います。その点でも、一生懸命にお話頂いたこと、その真剣さはとてもよく伝わってきましたし、率直に、感服するところがありました。であればこそ、では PSW として、PSW の価値に根差したとらえ方、PSW の価値を重視したとらえ方とは何かについてより深めて、打ち出しを図っていく必要もまた感じました。演習的に取り組む内容として、自分のジェノグラムを書くことを通じて、自分の家族を振り返る機会も提供頂きました。この点は、自身のことでもあり、参加者一人ひとりの中で、受けとめ方も幅があるかと思いますが、時間的にも全体でその作業内容を深めることは難しいところがあり、やはり後半の、特に最後の事例を通しての話が全体を圧倒したように思われ、それがまた学びにつながり、とてもよかったと思います。

アンケートでは、具体的な事例をあげての説明がとてもわかりやすく、また、家族を含めた問題解決の視点の大切さ、家族を一つのまとまりをもったシステムとしてとらえ、アプローチしていくことの理解につながったという感想が多く寄せられました。

現在、東日本大地震の直後というかつてない苦難の状況に直面しています。心理臨床家と PSW がともにこの困難な局面の中で、精一杯求められる役割を果たし、互いの働きと学びの中で、人々にとってより豊かに役立つものとなることを願うものです。

（研修部 2 月例会担当 地域生活支援センターなごやかサロン 藤井 弘）

【3月例会報告】

日 時： 2011年3月3日(木) 18:45～21:30 会 場：安東医院
テーマ： ～変わりゆく実習カリキュラム・変わらないPSWのつなぐ思い～
話題提供： 杉原 努 さん 佛教大学 福祉教育開発センター
前田 えり子 さん 京都市こころの健康増進センター
山本 幸博 さん ジョイント・ほっと
木下 未来 さん 西山病院
畚野 真木 さん 安東医院

参加者：14名

3月例会は、会員の皆様と実習について考える機会として開催した。参加者は14名でありアットホームな雰囲気の中、参加者全員で意見交換を行うことができ実りのある例会となった。

まず、平成24年度から精神保健福祉士養成課程の新カリキュラムに伴う実習カリキュラムの内容および変更点について、杉原さんより資料を使い説明していただいた。新カリキュラムでは、「実践力」のある精神保健福祉士の養成が目的の一つとされ、精神保健福祉士の「実践力」とはどのようなものなのかについて考えさせられた。

そして、行政・施設・医療機関において実習の受け入れを行っている4名の話者提供者が、現在行っている実習プログラムや実習で大切にしていることを報告し、新たな実習カリキュラムについて考えを述べた。話者提供者からは、「指導者の価値観を押しつけない」や「実習生にはたくさん何かを感じて悩んでほしい」など、実習で大切なキーワードがたくさん出された。

その後、当初の予定ではグループワークの予定であったが、参加者の人数からグループワークではなく参加者全員での意見交換の時間となった。

参加者へのアンケートでは、次のような感想が書かれていた。

- ・ シンポジストのそれぞれの方がすごくきちんと実習プログラムなどをつくって受けておられることに驚きました。というか、すごいなあと感じました。実習指導者講習会でもいわれていましたが、一定標準化して伝えていくことが課題だと思いました。
- ・ 自分が実習した時、知識を深めたり、気づきがあったり実りのある実習ができた。しかし、今回お話を聞いたように実習後、卒業後、すぐに実践力があつたわけではなかったと思いだした。私は、もっと実践に踏み込んだ実習にしていってよいと感じた。
- ・ 実習の取り組みをシェアする機会は続けたらよいと思います。

今回の例会では、実習のあり方について参加者それぞれの考えや意見が出され、最後まで意見交換が止まることはなかった。それだけ、実習についてそれぞれの思いがあることの表れだと考えられる。そして、このような例会を通じて、お互いに考え、悩み、分かち合うことが、よりよい生の実習に通じるのではないだろうか。今後もこのような機会を作り、一緒に実習について検討していきたい。

(実習検討委員会：畚野真木)

【初任者研修 精神保健福祉士の倫理 フォローアップ研修報告】

日 時	2011 年 3 月 6 日（日）
会 場	こどもみらい館 第一研修室
テーマ	初任者研修「精神保健福祉士の倫理」フォローアップ研修 ～ センスからスキルへ ～
講 師	村本詔司氏（神戸市外国語大学 教授）
参加者	9 名

今回のフォローアップ研修は初任者研修受講者を対象に研修で学んだことが、その後の日々の業務にどのように活かされているのか、また、キャリアを重ねた上で改めて学ぶことによってさらに理解を深め、センスやスキルアップを計ることを目的として開催しました。

参加にあたっては事前に「エピソード（模擬事例）をつくってみる」ということを課題とし、研修会に先立って日々のクライアントとのかかわりのなかでひっかかったり腑に落ちないような事柄をエピソードとして提出していただいたうえで、当日はそのエピソードに基づいてグループごとにディスカッションをしました。事前にエピソードを作ること、参加者のみなさんは、当日のグループディスカッションにより深く入り込むことができました。また、講師である神戸市外国語大学の村本詔司先生からのレクチャーにも重点を置きました。「倫理的意思決定：センスからスキルへ」というタイトルのもと、センスとスキルの関係性について、倫理的意思決定のプロセスについて、非常に興味深い内容の講義を聴かせていただくことができました。今回の研修は普段のクライアントとの関わりの中で私たちが無意識で行動していることを意識する時間であり、自分だったらどう考えるのか、なぜその行動をとるのか、ということを考える作業でもありました。

対象者に対して実際の参加者は9名と、ごく少人数での研修開催となりましたが、参加者からは「日々の振り返りができてよかった」「取り組みやすい内容だった」「普段の業務で疑問に思っていることを参加者のみなさんと共有できたのがよかった」「今後も継続して研修を企画してほしい」「また参加したい」という感想をいただくとともに「参加者がもっと多ければ良かった」という声も聞かれました。次回開催に際しては少しでも多くの方に参加していただける工夫をしていきたいと思っています。

（倫理について考える委員会）

【医療観察法 公開学習会報告】

日 時	2011 年 2 月 17 日（木）19:00～21:00
会 場	ジョイント・ほっと
参加者	計 11 名（委員 5 名を含む）

今回の公開学習会は、医療観察法学習会が6年目を迎えるにあたって、これまで学んだことを振り返り、整理することを目的として開催されました。

車座になって論議を深めていくという趣旨のもと、お茶とケーキをいただきながらのフリートーク形式で行なわれました。前半はこれまでの例会を通して学んできた内容を振り返りながら学習会委員が抱いた疑問点を提示し、それらを題材に後半のフリートークは始

まりました。重いテーマでありながら、終始和やかな雰囲気で行いました。

最初は参加された皆様が抱えているこの法律に対しての違和感を語り合いながら議論は展開しました。初めて参加される方が半数おられましたが、この法律に対して「縁遠い」と感じながらも、日々の業務の中で感じていることと照らし合わせながら「社会防衛的な意味合いが強い」「情報が入らず、どのような治療が行なわれているのか見えにくい」、「精神医療や地域福祉が底上げされたとは到底思えない」「なぜ通常の入院ではいけないのか、わざわざ特別な枠組みで治療を行なう必要があるのか」「治療後に自殺者が出ていることは大きな問題」等々の疑問点が挙げられ、予定されていた時間はあっという間に過ぎてしまいました。

今回のフリートークを通して、この法律に対して「違和感」を持つことから始まり、問題提起を深めるために「知ること」、そこから「我々に何が出来るのか」という能動的な姿勢につながっていくプロセスが見えてきました。参加された皆様が普段の業務で抱えている葛藤や疑問を例示しながら、身近な問題として捉えていく姿勢が感じられ、「医療観察法をもっと身近な問題とするにはどうしたらいいのか」「まずはこの法律のことを知ることから始めたい」、さらに「PSW として何が出来るのか、介入できる部分はあるのか」「対象行為に至る前に出来ることがあるのではないのか」「地域を耕すこと、受け皿となる地域を変えていくこと」と自分達が出来ることを考える機会となりました。

学習会委員の1人として、我々がこの法律への疑問を手放さないよう努力すること、身近な問題に引き寄せて深めていくこと、そのことを多くの会員と共有する中で「我々に何が出来るのか」を真剣に考えることの必要性を強く感じました。

(医療観察法学習会 中條 了)

【2010 年度 第 6 回 役員会を開催しました！】

日 時) 2011 年 2 月 19 日 (土) 14 : 00~18 : 30

場 所) 高木神経科医院 3 階会議室 進 行) 大塚 記 録) 西村

出席者) 上田・大塚・岡島・木下・熊取谷・下村・知名・西村・畚野・松田・物・吉田

欠席者) 梅崎・小野・斉藤・前田・渡辺

概要報告を HP に掲載しています→<http://kyo-psw.org/member/kapsw/yakuinkai.php>

【以下の情報が協会ホームページに記載されています。ご確認ください】

<http://kyo-psw.org/pswkaiin/> (協会 HP 新着情報)

- ◆ 「人権保障制度の実現を求める要請書」に連名参加しました。

<http://kyo-psw.org/pswkaiin/index.php?itemid=23>

- ◆ 入院中の患者の他医療機関受診の取り扱いの方法の改善を求める要望に賛同しました。

<http://kyo-psw.org/pswkaiin/index.php?itemid=24>

- ◆ 障害者基本法改正案への緊急声明を 5 団体で提出しました。

<http://kyo-psw.org/pswkaiin/index.php?itemid=21>

- ◆ 権利条約をふまえた障害者制度改革にむけての意見・要望を提出しました。

<http://kyo-psw.org/pswkaiin/index.php?itemid=26>

【リレー職場紹介】

社会福祉法人京都老人福祉会

京都市南部障害者地域生活支援センター ふかくさ
若松和美さん

京都市南部障害者地域生活支援センター「ふかくさ」は市から委託を受けて平成 18 年 10 月障害者自立支援法の施行に伴い開所。伏見区(醍醐地域を除く)地域に暮らしておられる障害のある方や、その家族からの相談に対して、福祉サービスの情報提供や、困られている事に対してお手伝い等させて頂いている。当センターは京阪伏見稲荷駅から西に徒歩 5 分所在にあり、介護保険での京都市深草・北部地域包括支援センターと同じ建物にあり「まちかど相談スポット」として看板を掲げ、地域の方の色々な相談を受けやすくなっている。障害の職員 4 名と包括の職員 5 名の机等と、来客用の 2 テーブルとでいっぱいの手狭な事務所だが、相談だけではなく、道案内等色んな方の来所もある。

そんな所で、「ふかくさ」が日々受ける相談については、1 週間に 1 回新規相談と継続して関わるケース等の確認や、研修等に参加した場合の報告を行かない共有を図ったり、月 1 回包括支援センターと一緒に、情報交換の時間がある。

4 年半「ふかくさ」で相談員をやってきて、福祉サービスに繋がらない軽度の障害の方や、親が高齢や病気で障害の子の先を案じたりと、地域で生活する上で多くの困難を抱いておられる方が多い事に気づく。

当事者の方と一緒に動く中で十分な答えが見つからず不十分な対応になる時は力不足を感じたり、多くの関係機関との連携で問題が解決したときはほっとしたりと、相談員としてどうあるべきか考えてしまう。

今後も地域での相談支援としての役割は大きく、期待に答えられるようになればと思う。

【通信情報部よりお知らせ】

通信情報部よりお届けした、「通信情報部ホームページ委員会からのご案内・会員ページが完成いたしました！」について

2 月中旬に、封書でお届けしました「通信情報部ホームページ委員会からのご案内・会員ページが完成いたしました！」について、会員の方から「急だったのでびっくりした」との声をいただきました。他にも、唐突にお感じの方がいらっしゃるかもしれませんので、改めて、協会ホームページの今に至る経緯のご報告と、会員ページの目的、ID とパスワードを配布することについて、ご説明させていただきます。

そもそも、協会ホームページの開設は、2004 年度に計画されたものです。その頃協会では、会員数の増加にともなう通信の発行・郵送にかかる費用や、増していく協会に届く情報を会員の皆さまと共有する術をどうしたものかという悩みをかかえており、事務局から郵送や FAX を利用して会員の皆さまへ通信やご連絡、情報をお届けすることに限界がきていました。その解決策としてホームページの開設が提案されました。HP に一定のセキュリティをかけることで個人情報などの安全を守ることのできる会員ページを設けることによって、郵送や FAX を利用してお届けしていた通信をはじめ、さまざまなご連絡、情報を会員の皆さまに速やかに提供できること、会員の皆さまからのご意見や、情報提供をいち早くすべての会員で共有できること、会員同士で交流がもてること、などが可能に

なると考えました。HP の開設は当初の計画では、協会運営を円滑にするためのものでした。同時にHPには会員だけでなく広く関係者や一般市民の方に対して発信していくことができるという利点もあります。協会が社会的に認知される団体として備えているべきものという側面と協会内の会員の情報通信ツールとしての側面というさまざまな目的をもつHP 開設には相応の準備期間が必要であり、結果として長い期間を費やすことになりました。

第一段階として、通信の発行や情報提供にメール配信を導入することになり、2004 年10 月からメール配信がスタートしました。そして第二段階として2005 年度からHP 開設を事業計画にあげて予算化、2007 年9 月の開設にいたったのです。さらにその後も第3 段階として、活用できるHP をめざし、ホームページ委員会内で検討を重ね、技術的な課題をクリアしながら、2009 年度末にはリニューアル、今年度会員ページの創設と現在のスタイルにたどりつきました。役員から、各委員会から、会員の皆さまからのさまざまな発信、会員間での意見交流が、ID・パスワードをもって利用する会員ページで安心して行っていくことができます。京都協会のいまを会員の皆さまと共有できるものとして、皆さまにご活用いただければと思います。

HP の開設を計画してから会員ページの完成には、多くの委員が携わり長い時間を要しました。この間の状況については総会でのご報告や、役員会で報告をしてきましたが、会員の皆さまにはお伝えしきれていなかったかもしれません。今後も、お気づきのこと、ご意見、ご要望など、遠慮なくお寄せください。よりよく活用できるHP を皆さまとともに作りあげていきたいと思っています。

(通信情報部)

【事務局からのお知らせ】

会員の動向

〔会員数〕平成23年3月26日現在 336名

〔退会〕青戸享子さん（所属）財団法人長岡記念財団 指定相談支援事業所
地域活動支援センター アンサンブル

上田康代さん（所属）財団法人長岡記念財団 指定相談支援事業所
地域活動支援センター アンサンブル

中野榮一さん（所属）なし

〔所属変更〕

川内由賀さん（新所属）土佐市地域活動支援センター

〒781-1101 高知県土佐市高岡甲 31-9 Tel/Fax 088-852-2577

（旧所属）花園大学大学院

小林祥子さん（新所属）なし

（旧所属）医療法人栄仁会 宇治おうばく病院 地域連携室

田中 大二郎（新所属）社会福祉法人 京都総合福祉協会
樫原居宅介護支援センター

（旧所属）社会福祉法人 京都総合福祉協会

洛西地域生活支援センター ウェストサイド

ほっと一息コーナー

もう4月。春ですね。先日サリュからお花見に行ってきました。
行先は醍醐寺。開花予想ではまだまだつぼみとのことでしたが
咲いている場所もちらほら。
きっと数週間後には満開になっていることでしょう。
やはり桜はきれいですね。
きれいなものを見ると心が嬉しくなりますね。
だからきっと多くの人が桜を見に訪れるんだろうなあ
なあって思ってみたり…。
しかも写真は桜じゃなかったりして（笑）

（サリュ 津田みづき）



【編集後記】

あっという間の新年度。自分にできることをコツコツと頑張ります。（津田みづき）